



2018

# 1月の健康コラム

Vol. 112

## 検査結果の見方（腹部エコー）

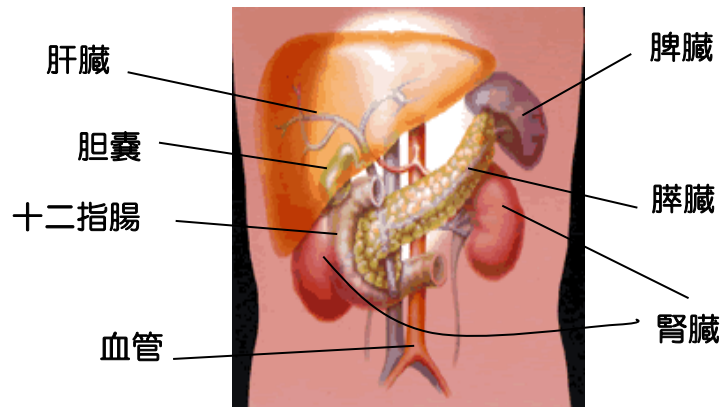
### ▼腹部超音波検査

「超音波」は人間の耳には聞こえない高い周波数の音波で、その伝播・反射の特性を利用して臓器の状態を調べるのが「超音波検査」です。

検査方法は、仰向けの状態でお腹に超音波の通りを良くするゼリーを塗って、腹部に超音波を発するプローブという器具を当て、その反射波（エコー）を受診・解析して画像化する検査です。

### ●この検査で疑われる病気

肝臓、胆のう、膵臓、腎臓などの疾患



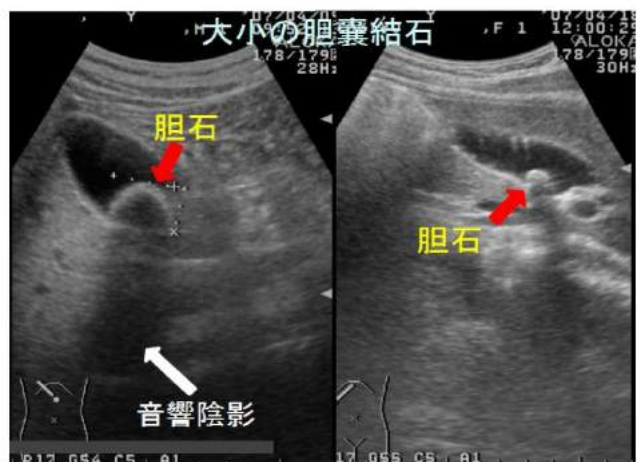
### 1.胆のうポリープ

胆のう内にできるポリープ。胆汁に含まれるコレステロールによるものが多く、ほとんどの場合心配ない。大きさが10mmを超えると詳しい検査が必要。



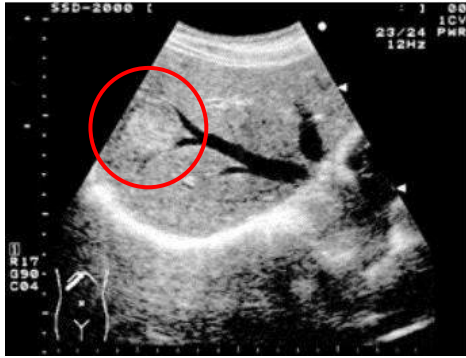
### 2.胆のう結石

胆汁に含まれるコレステロールやビリルビンなどの成分で作られる結石。無症状のことが多くその場合、治療は不要。



### 3. 肝血管腫

肝臓にできる良性腫瘍で最も多く見られる。エコーでは白っぽい腫瘍として映る。ほとんどは無症状で、基本的に治療は不要。



### 4. 肝臓がん（腫瘍性病変）

肝臓にできる悪性腫瘍。精密検査が必要。



高分化型肝細胞癌

典型的な肝細胞癌（中分化型）

### 5. 肝硬変（腹水）

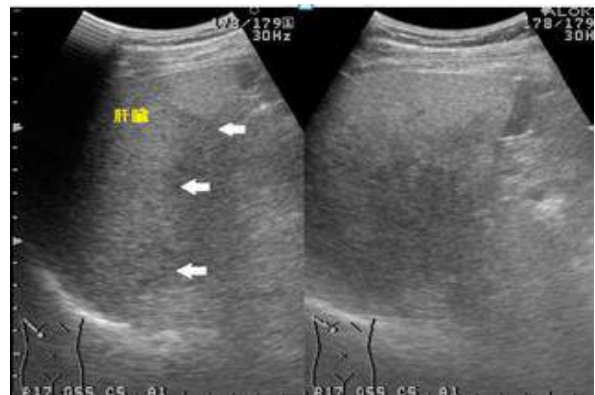
慢性の肝障害から肝臓が硬く変化して機能できなくなる状態。肝臓がんに移行しやすい。



腹水を伴った肝硬変

### 6. 脂肪肝

肝細胞に脂肪がたまった状態。アルコールが原因の脂肪肝は、肝硬変に移行する率が高い。非アルコール性であっても、数パーセントは肝硬変に移行する。

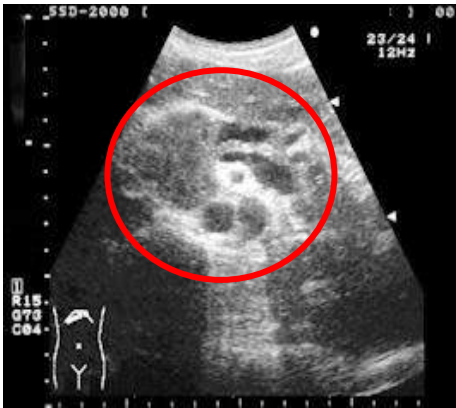


### お酒を飲まなくても要注意！NASH（ナッシュ）

これまでの非アルコール性脂肪肝は、放置しても脂肪肝の状態にとどまると言われてきた。しかし最近、アルコール性脂肪肝と同様、放置すると肝硬変や肝臓がんへ進行するタイプがあることがわかってきた。これを、非アルコール性脂肪肝炎（NASH）という。NASHになる理由ははっきりとはわかっていないが、肥満や糖尿病があるとなりやすいと言われている。いずれにしても、「お酒を飲まないから大丈夫」とはいえない肝臓病があることを覚えておいてください。

## 7. 膵臓がん（腫瘍性病変）

膵臓に腫瘍を疑う病変が見つかったら  
すい臓がんの可能性を考えて精密検査  
を行う。



## 8. 腎のう胞

腎臓にのう胞（球状の袋）ができた状態。  
基本的に治療は不要。



## 9. 尿管結石

尿管（おしこの通り道）に結石ができた状態。



### 判定が「要精密検査」になったら？

健康診断での腹部超音波検査は対象とする範囲が広いので、詳しい検査が必要な場合は専門の診療科を受診しましょう。  
肝臓・胆道・膵臓については「消化器内科」、腎臓や尿路については「泌尿器科」が専門になります。

再検査、精密検査が必要と判定された場合には、必ず受診しましょう。  
異常があったとしても早期であればあるほど、治療が奏効する確率が高くなり、医療費も安く済みます。

**「再検査を受けて早期発見、早期治療につなげましょう。」**

